

花と緑のぐんまづくり2014in沼田

～ふるさとキラキラフェスティバル～クロージングセレモニー  
5月18日(日)

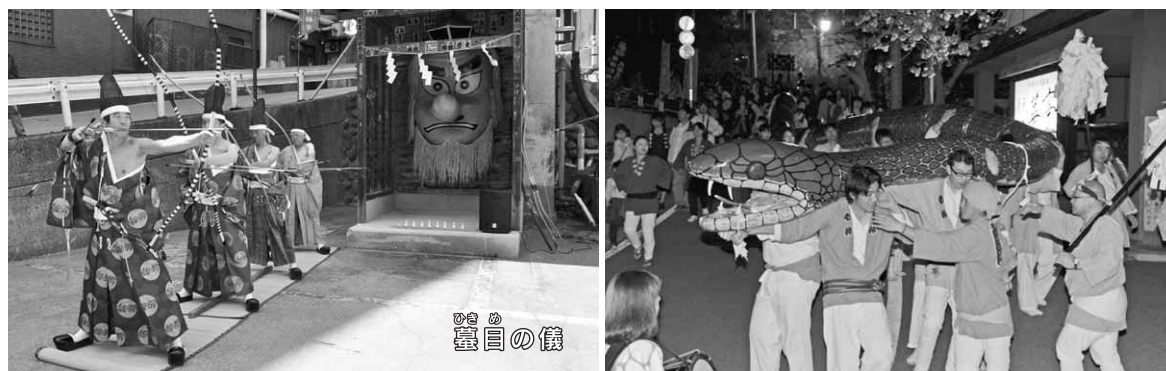
当日は「花と緑のコンテスト」や「長期活動緑化団体」などの表彰式のほか、本フェスティバルを締めくくる花と緑のぐんまづくりの「楯」引き継ぎが行われました。県と各市町村の合同開催となるこの事業。引き継ぎは代表者によるリレー形式で、開催地の証となる「楯」が横山沼田市長から茂原県副知事に返還され、次期開催地の中之条町折田町長へと手渡されました。4月19日に満開の桜の下で始まった本イベントは、30日間たくさんの花に包まれ約15万人の来場者を迎えることができました。これも開催に当たり多くの皆さまのご支援とご協力をいただいたおかげです。本当にありがとうございました。



新緑に包まれた温泉街に蛇みこしが登場

老神温泉大蛇まつり  
5月9日(金)、10日(土)

毎年恒例の老神温泉大蛇まつりが老神温泉地内で開催され、2日間にわたり多くの観光客らでにぎわいました。今年から初めて行われた魔性退散の儀式「墓目の儀」などが注目されたほか、若衆みこしが威勢よく温泉地内を練り歩き、祭りの夜を盛り上げました。



市ホームページでも、イベント結果などを紹介しています。ぜひ、ご覧ください。

ぬまたワオトちゃんぽ

YOROZU  
よろずとーく 86  
TALK

人形陶芸家  
新藤 廣子 さん  
(硯田町)  
Hiroko Shindou

指先の感覚で二度とない瞬間を作品にする。テーマは「今を生きる」です



独特の技法で心がほっこりする作品を創作する人形陶芸家の新藤廣子(作家名・廣習)さん。現在、その作風に魅せられ個展に足を運ぶファンや陶芸教室に通う生徒が増えている。

「陶芸を始めたきっかけは、偶然立ち寄った陶芸店で作った母の人形です。あの時は母が亡くなって間もなくでしたから、悲しみも癒えぬ状態でした」

出来た瞬間、母がそばに居る何とも言えない思いを感じた。「無我夢中で仕上げましたね。愛情を注いでくれた母が私の記憶から消えぬように。作品の原点は母親像にある気がします」

陶芸に出会って今年で15年目。



陶芸教室に通う生徒を笑顔で指導する新藤さん

独学で培った陶芸技法は、ろくろなどは使わず球体の粘土を両手で動かしながら創作する。その技法は当時から変わらない。「不思議なんですけど、目を閉じて自分の爪や指の関節で生命を感じながら作っています」

最初からイメージを持って創作活動に入る感覚は全くない。「球体を持った瞬間からです。心の中にある言葉にできない何かが生まれるというか、その二度とない瞬間を作品にする、テーマは「今を生きる」ですね」

今まで手掛けた作品は約3000体と語る新藤さん。今後も郷土沼田を中心に活動を続ける。「人が喜んでくれる事は、自分の喜びになります。1人でも多くの人に私の作品を見てもらいたいです。『サラダパークぬまた』にも表情豊かな私の人形たちがいますので、ぜひご覧ください」

われら いっしょに サークル 246

ふれあいサポート会 (会員数21人)

代表者 塩野みどり さん  
(連絡先 ☎ 9918)



ふれあいサポート会は、県が実施した生涯学習講座「長寿学園」の卒業生が、学んだ事や自らの経験を生かした活動をしようと平成14年に発足しました。子どもたちに昔の遊びを教えたり、障害のある人への理解を深める小中学校車いす体験活動、病院やデイサービスで患者やお年寄りの話を聴く傾聴ボランティアなど、幅広く活動しています。さまざまな世代の人との交流が大きな魅力であり喜びです。共に活動していただける人は、ぜひ、ご連絡ください。